連絡先

海野雅史：unno@gunma-u.ac.jp

* 海外留学・滞在に興味がある人はfacebookで友だち登録してください（群馬大学を所属としている場合無条件に承認）

講義の進め方

・卒研発表をおこなっていることが前提になるため、先取り科目としては認定しない。

・単位が必要な者は両方の講義に出席することが必要である。（単位を必要としないスポット出席はすべての学年において可能）

本年度行う分野

聞き取りにより決定

講義に関するサイト（海野）

http://unno.chem-bio.st.gunma-u.ac.jp/English

日本人として、科学英文を書く

→完璧にできることは不可能

ただし、必ず進歩はする。

→何をすべきかを知り、日時それを実行する。

レポートについて

卒業研究の序論の部分を英語に直して、A4用紙1枚程度にまとめて提出

メールでファイル送付。

unno@gunma-u.ac.jp

締切は８月中旬

（書く）

英語の論文を読んで、そこから正しい表現、単語の使い方を学ぶ

自分の英語ノートを作る（ファイルでもよい）

1. 長期間使用に耐えるノートを選ぶ。ファイルを使用する際はバックアップ（Webサービスが便利）を必ずする
2. 以下の項目に従って、ネイティブの英文を書き出していく。
* ノート全体を以下のセクションに分ける。

イントロ・サマリー

実験項

名詞

形容詞・副詞

動詞

接続語

前置詞

上の2セクションは下の5セクションの大体２倍になるようにページを取る

1. イントロ

論文の書き出し、およびまとめの部分を読んで、使える表現を書き出していく。それぞれの英文に簡単なタイトルを入れておく。

（例）(Goddard/書き出し) In recent years, a great deal of progress has been made in developing ～.

2. 実験項

本文の実験に関する記述から、使える表現を抜き出す。

文章の前に、その内容を簡潔に表す単語を入れておく：

（反応）（分析）（収率）（失敗）
のように。

（反応）Subsequent treatment of (原料) with (試剤) led to （目的物）.

\*あまり凝った表現は使わないほうがよい

(比率) ratio was 10:1 in favor of 1.

(分離) This mixture was isolated with recycle-type HPLC.

(同定)　The structure of the product was determined by NMR spectra.

３. 名詞

周辺の語と一緒に示して、意味も書く（名詞の場合は一緒に用いられる動詞も書く）

scaffold 骨格（ペプチド）

objective basis 客観的理由

deficiency　問題点

postulated mechanistic pathway 推定メカニズム

employed condition 用いた条件

既知法で合成：converted into 　〜　by known procedures

４．形容詞、副詞

修飾する相手を必ず書く

reacted sluggishly反応が遅い

concomitant synthesis引き続く

apparently どうも～らしい

effortlessly available 簡単に手に入る

amply demonstrated 十分に決定できる

５．動詞―周辺の単語もまとめて書く

furnish structure of ～　合成する

set forth toward the total synthesisのりだす

devise a better route to 1良い方法を考える

６．接続語―英語はつながりを重視する言語である

Particularly,　特に

As a result, 結果として

Despite～, にもかかわらず

Much to our surprise, 驚いたことに

Alternatively, もう一つの方法として

７．前置詞

前置詞の周辺（特に直前の名詞・動詞または直後の単語）
とともに書き抜く

study on (分野)

剽窃について

・文章をそのままコピーして使用する場合はX

・単語等が異なっていれば、文章が類似でも◯

<https://style.nikkei.com/career/DF180320167077>

ビジネス英語　今日の一言

後は、雑誌などで英語の表などがあったときは、コピーしてはっておくと良い。

* 論文の長い歴史の中で、使われる言葉が決まっている。

→場面場面で使われる単語を知る（辞書はあまり役に立たない）

英語が書けるようにするために、今日からすべきこと

１． 論文を読んだときに、使える表現があれば、ノートに控えておく。

a) イントロの書き出しをそのまま写す→自分でいい表現かどうか判断できないときは、著者（ネイティブであるか）、雑誌のレベルが高いか（Nature, Science, Angewandte Chemie, JACS）+本で判断する。

注：イントロの頁を１０頁ぐらいとっておいて、そこに書いていく。

b) 合成セクションの文も書いておく。

（例）（反応）Subsequent treatment of ～with～led to imine 14.

(失敗)Initial attempts to construct ～ from ～ were plagued (災いにかかる)by the formation of ～.

(比率)ratio was 10:1 in favor of 1.

これは２０頁ぐらいあった方が良い。

次の会話文で間違っている部分はどこか？

"Can you help me? I'm looking for the department store."

（正解）

theではなくaを使うべきである

― 本日のトピックは冠詞の使い方

定冠詞theを使うか、不定冠詞a, anを使うかは、聞き手が知っているかどうかによる。

聞き手がそのものを特定できるときはthe、できないときはa, anを使う。

次の括弧にa, anかtheを入れよ。

（論文の書き出し）

In this study, we examined ( ) colony of bees.

( ) colony was on ( ) island in Okinawa Prefecture, Japan.

 (正解) a, The, an

an honest man (発音がaiueoで始まるものはan)

(　　) NMR spectrum

( an ) NMR spectrum

文章の初めではどの蜂の群れを使ったかはわからないのでaをつける。2番目の文では、最初の文で既に群れが特定されているのでtheを使う。島の名前はわからないのでanをつける。

文脈で特定できる他、状況でわかることもある。



In this study, we first examined ( ) circle shown in Fig. 1.

 >ａ　○が3つあるのでtheは使えない

Next, we examined the circle shown in Fig. 1.

>circle →　circlesとすれば文章として正しい



Finally, we examined （　　） rhombus shown in Fig. 3.

the

このように、読者が知らない可能性がある単語を用いるときは、以下のように補足してやる必要がある。

先の文章の後に（The rhombus is the shape with four sides of equal lengths.)のようにする。

読みやすい論文は受理されやすい。たとえ優れた結果が述べられていたとしても、英語が読みにくくて、一文ごとにつっかえるような場合、レフリー（査読者）は気分を害してrejectすることが多い。

読者のレベルを低く考えて、過剰気味に説明を入れる。文章は短く、平易に。

以上のように、theは「相手が文脈や状況、または既存知識で分かること」を示す名詞につくことが多い。「相手が常識で分かること」を表すこともある。

このコミュニケーションでは、このクラスの化合物の、新しい概念に基づいた手法を述べる。

In this communication, we ~~say~~

 describe

the methods based on a new concept of this class of compounds.

In this communication, we describe a conceptually new approach to this class of compounds.

コンビナトリアル化学は生理活性を持つペプチドの迅速な合成において、日に日に重要なツールとなってきた。

Combinatorial chemistry has

 became ~~the~~ important tool

become an

 day by day for the (prompt)

 rapid

synthesis of bioactivity peptides. bioactive

Combinatorial chemistry has

become an increasingly important tool for the rapid construction of bioactive peptides.

（英訳の方法・秘訣）

最初は日本語を考えてから、英語に直す。

まず、訳しにくいと思ったら、日本語を変える。

→主語、述語、目的語をはっきりさせた文章にする。

→その上で英語にする。

英文校正会社が教える英語論文のミス１００

エディテージ著、熊沢美穂子訳

The Japan Times発行

Theをつけるべき名詞

1. 山脈、川、半島、海

普通名詞で始まる場合はつけない lake Tahoe

大陸、殆どの国、通り、都市にはつけない

1. 組織、機関の名前にもtheがつく

the University of California

大学名がUniversityで終わる場合はtheをつけない（但し大学名は大学が決めるので場合による）

1. 等級、序列が示されている名詞

the next experiment, the following instructions

4. 身体器官

the nose, the legs

The をつけてはいけない場合

1. 名詞の後に数字が来る場合

compound 11, group A, Scheme 1

2. 固有名詞’s の場合

Grubbs’ catalyst（この場合はアポストロフィが許されるが、アポストロフィなしに変わりつつある）

３．病名の前

＞前置詞の使い方

influence on~ ~が影響を受ける

influence of~ ~が影響を及ぼす

difference of ~ 程度の違い

difference in ~ 特徴の違い

difference of 15% yield

difference in the shapes

前置詞の見つけ方

＞辞書を引いて例文を見てみる

＞googleでそれぞれの前置詞をつけて検索、文から判断する

＊googleでは２語が続けて出てくる場合を限定して検索できるので、その方法で行うとよい

＊二通りの前置詞が可能な場合は、

検索で出てきた件数から判断できる。多い方を使う。

マンニッヒ反応は、窒素を含む化合物の構築のための化学変換において、もっとも広く用いられている反応の一つである。

The Mannich reaction is one of the most general reactions used in chemical conversion for building ~~of the~~ compounds containing nitrogen.

The Mannich reaction is one of the most widely utilized chemical transformations for the construction of nitrogen-containing compounds.

utilize = use だが、少しかたい調子

transformation: 変換

construction: 骨格などを構築する

contain: 含む

ＨＩＶに打ち勝つための新しい治療薬の開発は、薬学の研究においてずっと活発な分野であり続けている。

The development of new therapeutic agents to overcome HIV has always been an active field in pharmaceutical research.

The development of new therapeutic agents to combat HIV continues to be an intense area of pharmaceutical research.

intense: 程度がはなはだしい

時制について

＞実験結果は基本的に過去形

＞普遍的な事実は現在形（筆者が確信を持って正しいと考えていることをあえて現在形で書くこともある）

＞現在完了は、これまでに行われてきた、という内容（イントロなど）で用いられる。継続の意味がほとんど。

現在完了形は、これまでの事項が現在に影響しているとき用いる

研究目的は過去形で書く was

The aim of this study ~~is~~ to determine the local structure..

The aim of this paper is to describe..

下の文は今ある論文の内容なのでOK

しかし、最近になって、直鎖ジエンの環化オレフィンメタセシスはへテロ環の合成において非常に有効な方法として注目を集めている。

But recently, ring olefin metathesis of linear dienes ~~is~~ focused

 ring-closing has been

as a valid method of the synthesis of (ring hetero).

 heterocycles

However, ~~cyclized~~ olefin metathesis of linear dienes has

 cyclization

 attracted much attention as a very effective method for the synthesis of heterocycles ~~in~~ recently.

Recently, however, ring-closing olefin metathesis of acyclic dienes has received considerable attention as a highly efficient methodology for the synthesis of heterocycles.

considerable: 非常に（よい意味で）、大きな

methodology: 方法論、今では方法の集合のときに使う

これは、第一に過去10年間に渡る構造のはっきりした遷移金属触媒の開発によるものである。

To begin with, this is due to the development of transition

Firstly,

metals (having clearly) structure in the last decade.

 with defined

This is primarily due to the development of well-defined transition metal catalysts over the last decade.

(Nativeの文章も上のものに同じ)

well-defined: 構造がはっきり決定した、日本語では高度に構造が規制された、と言う。

1. 超分子化学の主たる目標は、あたらしい構造体の構築にある。

The main objective of supramolecular chemistry is to construct a new structure.

The main goal of supramolecular chemistry is to construct new structures.

A major goal of supramolecular chemistry is the development of new structures.

1. 過去１０年間に、規則性を持つポーラスな固体を合成する能力については、著しい進歩が見られた。

Over the past decade, significant progress has been made in the ability to synthesize porous solids with (regularity).

 ordered structure

During the last decade, an ability to synthesize stereoregular~~ity~~ porous solids remarkably advanced.

The past decade has seen significant advances in the ability to fabricate new porous solids with ordered structures.

無生物主語：文章がシンプルになるなら積極的に使う

fabricate: 合成する、特に高分子や材料など

1. このことは、結果として異常な物性を持つ素材につながった。

As a result, this (factor) ~~combined with~~ materials having

 came to the

 (abnormal) property.

unusual

This resulted in materials with unusual (physical) properties.

This has resulted in materials with unusual properties.

能動態と受動態

The temperature of the room increased by 5 °C.

The temperature of the room was increased by 5 °C.

上は自然に温度が上がった

下は誰かによって温度があげられた

＞比較対象が不合理

The design of Annie is better than / Jill.

 　　　　　　　　　　　　　　　that of

同じものを比べないといけない

thanの代わりにcompared toを用いることもできるが、比較級を使うことを忘れがちなので注意

＞フォーマルな単語の誤用

use:　使う

utilize:　何かを実用的あるいは有益に使う＝活用する

＞文頭に数字または略号が来るときはスペルアウト（単語に直す）する。

14 patients.. -> Fourteen patients..

(例外)

化合物名はそのまま、但し、最初のアルファベットが大文字

2-Methylpropene compound

単位の前にスペースを入れる

（例外）％、°、‘など

X *Tert*-butyl alcohol　接頭語は大文字にしない

◯*tert*-Butyl alcohol

X *tert*-Bu　→　*t*-Bu

X *t*-butyl　→　*tert*-butyl

タイトルは各単語を大文字にするが以下のものは小文字のまま

冠詞

前置詞

ハイフンの後ろ

＞日本語フォントが混じらないように注意する

The yield was 25%.

The yield was 25%.

The yield was 25%.(MS明朝)

The yield was 25%.（Times）

日本語フォントの選択

これまではMac/Windowsで共通であるという理由でMS明朝とMSゴシックがよく使われてきた。

ただし、これらのフォントはWindowsができた頃に使いやすいという理由で作られたので、今の基準で考えると美しくない。

できるだけ現在のフォント（メイリオ、游ゴシックなど）をつかうこと。

1. 我々の比較的最近の、この問題に関する関与は、この化合物から始まっている。

Our relatively recent involvement ~~about~~ this problem began ~~with~~ this

 in from

compound.

Our relatively recent involvement ~~on~~ this issue began ~~with~~ this compound in from

Our own relatively recent involvement in this problem arose from this compound.

1. 最近、Ａの開発において、著しい発展がみられる。

Recently, there have been significant advances in（the development of ）A.　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　developing

The / advance of (the development of) A ~~recently~~ has been

 recent developing

remarkable.

In recent years, a great deal of progress has been made in developing A.

1. これらの触媒は、重合にきわめて貴重で、有効であることが示された。

These catalysts (presented) extremely important and (valid) ~~one~~ for

 were shown to be effective

polymerization.

These catalysts were shown to be extremely valuable and effective for polymerization.

南極のオゾン層に「穴」が開いていることが1985年に初めて発見され、20世紀後半最大の環境間題の一つの始まりが周知の事実となった。

A hole was first discovered in the Antarctic ozone layer in 1985, and it became a known fact that the beginnings of one of the biggest environmental (interrogations) of the second

 issues

half of the 20th century began.

A hole in the Antarctic ozone layer was first discovered in 1985. It became a well-known fact that the beginning of one of the (border) issues in the second half of the 20th century.

 serious environmental

The discovery in 1985 of an unprecedented ‘hole’ in Antarctica’s ozone layer heralded the beginning of one of the most influential environmental stories of the late twentieth century.

化学論文あるいは専門分野の論文で使われる用語が決まっている。これを覚える。使えない単語が結構ある。

X　a lot of, lots of

X get

X can’t ○　can not, cannot

口語英語と違ったニュアンスが必要なため

論文をたくさん読んで、身につける。

英語の場合は、文章が長くなる場合は2つに分けるか、カンマで分けて、読みやすくすること

A marble was put into the solution. Ten minutes later, bubbles were observed on the surface of the marble.

surfaceにもtheがついているのはなぜか？

→一般常識として、ビー玉は球で表面が一つしかないことは知られている。従って特定でき、theを使う。

The reaction removes a carbon atom from the EAK molecule.

EAK=Ethyl amyl ketone (C8H16O)

同じ文章で、EAKの部分をメタノールにしたら冠詞は何が適当か？

→theになる

この場合、炭素原子は複数あるので、aを使う

英語帳は有用であるが、ある程度数が増えないと使えない。そのときはネットのコーパスを利用する。

http://sara.natcorp.ox.ac.uk/

We synthesized a compound and measured its molecular weight.

冠詞aとitsを加えるか、名詞を複数形にすることが必要。

日本人としては理解しにくいが、compoundもweightも可算名詞（数えられる名詞）である。

辞書で単語の後ろにCと書いてあれば加算、UCと書いてあれば不可算名詞である。

We installed a new equipment.

apparatus

equipment

いずれも装置という意味で、共に同じぐらいよく用いられる。

ところが、apparatusは可算でequipmentは不可算。従ってequipmentsという用法は誤り。

○We installed a new apparatus.

○We installed new equipment.

さらにややこしいのは、多くの名詞は文脈によって可算になる場合も不可算になる場合もある。

molecular weight

特定物質の分子量＝可算

分子量という性質＝不可算

Molecular weight is an important property of monomers.

無冠詞の単数形で使われていたら不可算、a, anまたは複数形で使われていたら可算。よく使う単語については覚えてしまう。

・関係代名詞

制限用法と非制限用法がある。

* 1. 制限用法

We weighed several samples, and we analyzed the sample that had the highest density.

thatを用いて、sampleを制限している（いくつかあるうちから一つを選んだ）

２．非制限用法

We took a sample of the substance. Later, we analyzed the sample, which had a reddish color.

この場合は、sampleは一つなので、制限しているわけではない。which以下は単にサンプルの説明をしているだけ。

制限用法ではカンマを用いず、that (かwhich)を使う。非制限用法では関係詞の前にカンマをつけて、whichだけを使う。

ところで、関係節（節というのは主語述語がある部分のこと）で修飾されている名詞は読者に知られているかどうか？

制限用法＝知られていない、非制限用法＝知られている　なので、theの使い方と同じ

I visited Japan, which is an Asian country. (非制限用法)

I visited the Japan that is an Asian country.

同じ内容の文章を無理に制限用法にすると2番目の文のようになり、「複数ある日本の中からアジアの国である日本を訪れた」となって、意味がおかしい。

このような文を書かないように。

固有名詞を制限用法で使ってはいけない。

不適切な擬人法

人間が行う行為については、擬人法は使えない。

determine, conclude, find, summarize, compare

以下の主語を用いるときに間違いやすい

method, theory, research, table, figure

日本語では、単純に文章をつなぐようなときにも「が」を使うことがある。意味を考えて、and等の接続詞を使う。

接続詞をどうしても考えつかないときは、；でつなげてもよい（このときは、接続詞がなくてもよい）ただし、接続詞がないということは、文章のリズムを損なうので、せいぜい一論文あたり数カ所にとどめる。

（ポイント）

能動態、受動態の使い分け

１．英語を使う国の成り立ちとして、能動態を使うことが推奨される。

２．強調したい語句が最初に来るようにする。

科学論文の構成

アブストラクト→序文→結果と議論→まとめ→実験の部→参考文献

分野によっては（高分子など）実験の部が序文の次に来ることがある。投稿する論文誌のスタイルに合わせる。

重要なのは、それぞれの中身をどのように構成するか。

(1) First, the sample was immersed in a saline solution. Next, a pipette was used to stir the solution.

(2) First, the sample was immersed in a saline solution. Next the solution was stirred with a pipette.

情報の流れの規則による。文章として良いのは（２）

・古い情報（読者に知られている情報）は先。

・新しい情報（読者に知られていない情報）は後。

（１）では、前文の最後にsolutionが出てきているが、後文は、pipetteで始まっている→つながりが悪い。読者が知らないpipetteが先に来ている。

（２）は、後文が既に出てきたThe solutionで始まっており、新しい情報が後にあるので、つながりも良く、流れの規則に従っている。

この規則は、日本語にも当てはまる。

最初に知られている事実を述べて、次に新しい内容を入れる。

（例）ほとんどの隕石は小惑星から来ていると考えられるが、中には月や火星から来ているものも最近では知られている。

下線部が既に知られていること、その後ろが新しい情報

情報の流れの規則に反してしまうことが多いのは翻訳文である。先の文章を英訳してみると、

It is thought that almost all meteorites come from asteroids, but it has recently become known that some come from the moon or Mars. However, their ratio is only about 0.1% of all meteorites.

ただし、これらの割合は隕石全体の僅か0.1％ほどである。

和文を英訳すると、つながりが悪くなるのは、2番目の文章で、古い情報であるmeteoritesが新しい情報である0.1%より後ろになってしまっているから。

規則を守るためには、２番目の文章を

However, their ratio among all meteorites is only about 0.1%.または

Among all meteorites, however, they account for only about 0.1%.

とすればよい。

日本語を英語に直している限り、このような問題は避けられない。できるだけ早く、いきなり英語を書けるようにする。

これ以外に以下のルールがある

略号で文章を始めるのはよくない：

NMR measurement was performed …. −＞　Nuclear magnetic resonance ……

数字で文章を始めるのはよくない

X 80％ yield was recorded.

O Eighty percent yield …

いずれの場合も、開くよりは、文頭の言葉が変わるように文章を変えたほうがスマート

・略号の使用

We added 500 ml of crude terephthalic acid (CTA) and heated the sample to 80 °C.

→We added five hundred milliliters of crude terephthalic acid, or CTA, …… eighty degrees cercius.

この場合は、たとえばmlをえむえるといったとすると、nlと区別がつきにくい。なので、できるだけ間違いを避ける意味でミリリッターと言った方がよい。

ＣＴＡのような略号は、できるだけ避ける。読み原稿には略号は必要なければ入れない。

読み原稿を作る際、数字などは英語でスラスラ読めるように、five hundred mlのように書いておくとよい。*i*-PrOH　(イソプロピルアルコールまたは２−プロパノール、イソプロパノールではない)

のような略号もisopropyl alcoholと書いておく。

先のようなカッコで略号を書いてある文章はどう読むか？

crude terephthalic acid, or CTA と読む

読み原稿を正しく直すと

We added five hundred milliliters of crude terephthalic acid, or CTA, and heated the sample to eighty degrees Celsius.

言葉を言い換える場合、, or を使う

英語での口頭発表の準備

1. 台本の作成
2. 短い文章で書く

関係代名詞の非制限用法はできるだけ使わない。

制限用法でも後ろが長くなるようなら、他の言い方に変える。

1. 化合物名など、長い名称はできるだけ避ける。This compound, Compound 1, the starting materialのように言い換える。

・英語と日本語の違い

我々は、ガンマ放射線のフラーレンなどへの影響を調べた

gamma radiation, fullerene

 We examined the effects of gamma radiation on fullerene and so on (or. etc.)

この英文の問題点は、最後のand so onにある。などに当たる英文はand so onだが、両者には大きな意味の違いがある。

など：例として示す意を添える。同類のものがあってもなくてもよい

英語のand so onは、同類のものがなくてはいけない。従って、上の英文のようにfullerene and so onとすると、読者はフラーレン以外に何を調べたのか、悩む。よって、このような使い方は誤り。

○schools, colleges and so on

読者がand so onの内容を想定できるのでOK。

では、先の文はどう訳すすべきか？

1. fullerene, graphite, diamond and so on
2. ~~~ on allotropes of carbon such as fullerene
3. ~~~ on fullerene and other allotropes of carbon

〜などが具体的に示すものがない場合はand so onをつけない

・和製英語の困惑

辞書を引いても分からないことというのは多い。和製英語の問題も重要

こういうことをどのように調べるか？

サーチエンジンを利用する。googleである単語を調べると、いくつヒットしたかというのが必ず数字で出てくる。その数を比べることで、どちらがよく使われているかがわかる。

on the site’s top page “ 23

on the site’s home page”15,000

on the site’s homepage” 9,420

サイトのトップページで“14,200

サイトのホームページで“384

非常に英文を書く上で役に立つかもしれない。effect on なのかeffect ofなのか、がわからなくなったときは、googleの検索件数で比較できる。多い方を採用する。

主題と主語

As for gases, their volume changes depending on the temperature.

As for gasesの部分が日本語的

英語としてはよくない文。

・英語では主語が文章の中心

・日本語では主題が文章の中心

As for ~ 〜に関してはという意味で、「体積が温度で変化する」という主題に意味を添える程度の働きしかない。

日本語では。「〜が」という主語をはっきり表す助詞（格助詞）以外に、「〜は」という主語を表すだけでなくニュアンスを付け加える助詞（副助詞）がよく使われる。

日本人はWith regard to ~, In the case of ~をよく使う。ただし、これを使いすぎると英語らしくない英文になる。

英語らしい文章にするにははっきりと主語を出す。

As for gases, ...の代わりにThe volume of gases changes ~

主題と動詞

日本語では、文の中心的な意味が名詞に、英語では動詞に集中することが多い。

放射された電子のエネルギースペクトルの観測をした。

A: We did an observation of the energy spectra of the emitted electron.

B: We observed the energy ~.

この装置は加熱温度の測定を可能にする

A: This device enables the measurement of the heating temperature.

B: This device enables us to measure the heating temperature.

Bのほうが英語らしい表現

この発見の実用化の研究を行っている

A: We are conducting research on the application of this discovery.

B: We are studying how to apply this discovery.

上の例文は、すべてAが日本語的、Bが「よく書けている」と言われる英文である。

文章を動詞を主体で書いているか、名詞を主体で書いているかの違い

日本語では「する」「ある」「なる」のように、単体では意味を持たず、名詞と組み合わせて動作を表す言葉が多い。

英語では動詞が多彩で、意味に富んでいる動詞が多数存在するため、動詞をよく使う。

さらに、英語の感覚では

名詞：変化のない意味の固定された概念

動詞：ダイナミックで変化していること

そのため、動詞が好まれる。

make preparation → prepare

reach a conclusion → conclude

carry out a revision → revise

英語では可能な限り動詞を使って文章を書く

相手を配慮した英語表現

英語には尊敬語、丁寧語にあたるものは存在しない。

敬称を最後につける

“How are you, Professor ~?”

知らない人の場合はSir, Ma’amをつける

依頼に関して

X　Will you send me a reprint of your paper?

日本の英語の教科書では、依頼の表現としてよく出てくる。

Will you〜というのは、命令文と同じぐらいの意味になる。

X Please send me a reprint.

pleaseを使ってもまだ命令に近い

○ Could you 〜

さらに丁寧に

○　I was wondering if 〜

最後の表現は、いろいろなフォーマルな場面で使えるので覚えておこう。

依頼の場合、断る側の立場まで考えるのが、もっとも上の敬意を表す表現になる。

たとえば先の表現は非常に丁寧だが、事情があって断らなければいけないとき、

“I’m sorry, but I can’t.”

誰にとっても人の依頼を断るのは愉快なことではないので、できるだけしたくない、できない、という答えにならないような依頼が親切

I was wondering if reprints of your paper are available.

この場合、だめなときでも

I’m sorry, but no reprints are available.

と答えられるので、親切である。

I was wondering if I could visit your laboratory.

I was wondering if your laboratory is open to visitors.

英語の呼び方について

初対面の人にどのように呼べばいいかの問題　日本語の場合は　〜さん、〜様

、〜先生でよい。

英語の場合は、相手の出身国、現在住んでいる国、職位、学歴、年齢、性別、婚姻状態などが関わってきて、かなり複雑

1960年代ぐらいまでは、親しい友人以外はほとんどMr./Mrs./Missを使っていた.最近はファーストネームの使用が多くなって、かつMs.という言い方が好まれるようになった。

レポート

卒研発表のイントロダクションの部分を英訳し、もとの日本分と英文をWordファイルでunno@gunma-u.ac.jpまで送付

締切は８月中旬